

令和2年度 第2回図書館協議会

- 1 日時 令和2年12月22日（水）10：00～
- 2 場所 美術博物館講堂
- 3 出席者（委員）今村委員、竹内委員、中村委員、福沢委員、林委員、唐木委員、長沼委員
小坂委員、河西委員
（事務局）瀧本中央図書館長、矢澤情報サービス係長、小森ビジネス支援係長、
関口県図書館長、宮下上郷図書館長
- 4 瀧本館長挨拶
- 5 今村会長挨拶
- 6 会議事項
 - （1）第2次飯田市教育振興基本計画の中期4年間の取組について
 - （2）第4次飯田市立図書館サービス計画（案）について
 - （3）その他
- 7 報告事項
 - 県図書館の移転について
- 8 事務局からの事務連絡
 - 蔵書点検について
 - よむリス

- 6 会議内容
 - （1）第2次飯田市教育振興基本計画の中期4年間の取組について
事務局 <資料説明>
 - （2）第4次飯田市立図書館サービス計画（案）について
事務局 <資料説明>

<質疑>

- 会長 （1）（2）について質問、意見等があるか。
- 委員A （小中学校で）タブレットが支給されたと思うが、読書活動、読書生活の状況への変化や影響はあったか。
- 委員B 中学校では導入されて3か月経つが、読書の活動にもまだ（タブレットを）活かせていないが、逆に、それによって読書の活動が減ってしまったということもないと思う。まだパソコンの活用は始まったばかりなので、基本的には学習に使うということで導入されているが、そこもまだこれから活用していくところ。読書という切り口で見た時には、いろんなことが出来そうでもあるし、始めたいという気持ちはある。

- 委員C 小学校の方も、まだこれからの状態。学校の授業で行うことも始まってはいるが、まだ頻繁に使っている状況ではない。これから、パソコンを利用する時のルール作りが大事になってくるので、そういったことがしっかりできてからになる。今現在で読書との関係はどうかということ、まだ言えないところもある。
- パソコンは子どもたちも関心が高く、調べ学習ですぐにパソコン（ネット）で調べている。図書館に行って調べるより魅力的なところがあるのかなと思うところがあり、今後使っていく中で様子を見ていかななくてはならないと思う。パソコンばかりにならないように、本の大事なところも伝えていきたい。
- 委員A 本から調べて得る知識と、パソコンやインターネットから得る知識とは基本的に違うのではないか。本の場合は、自分で考えて調べてまとめる。確かに安易な情報はパソコンで得られるが、その辺は今後学校でも注意して指導をしていていただきたい。私も本の情報とパソコンから得る情報を比較するが、特にこれから子どもにもそういうスキルが必要と思う。
- 委員D 社会教育の課題は非常に細かく、公民館の活動の中でもいろいろ取り組んでいかななくてはならない。飯田市教育振興基本計画中期計画（素案）の重点目標2に「飯田の価値と魅力の学びと発信」とあり、難しい課題だと思うが、具体的な企画や原案、考えがあったら教えて欲しい。
- 事務局 今までも「伊那谷の自然と文化」に力を入れてきたが、この地域の多様で独自の歴史や文化などを学ぶとともにこれからの引き継いでいくことが「飯田の価値と魅力の学びと発信」の部分になる。美術博物館・歴史研究所・生涯学習の文化財の部分、あるいは地域にある伊那谷研究者団体協議会、例えば伊那史学会や南信州民俗の会など様々な会があるが、それらで研究されたものは市民の皆さんに還元できるように発信していくとともに、地域の皆さんが行っている自主的な学びのグループについても、交流や支援をし、次の世代につなげていくためには何をしたらよいかを、一緒になって考えていく。市の施設も、市民も、各団体の皆さんとも一緒に地域の研究について協力して進めていきたい。地域の学ぶ人たちの支援にも力を入れ、情報発信をしていくとともに地域の研究者も支えていく。
- 委員E 「教育振興基本計画 重点目標3」で、地域文化のところ「文化活動を1回以上行っている人の割合」というのはどういう頻度か。スポーツのところは週1回以上とある。
- 事務局 担当課に確認する。市が毎年行っている市民の意識調査による。
- 委員E 全国シェア70パーセントを占める水引のことが入っていない。飯田の伝統文化であるから、市として積極的に力を入れたらどうかと思う。
- 事務局 具体的に、教育活動や生涯学習も含めて、どんな想定かご意見がうかがいたい。

委員E 最近はだいぶ学校でも体験など行ってきていると思うが、まだ触ったこともないという子どもさんもいる。ボランティアで小学生に教えたりしているが、そういうものが飯田市全体になるといいと思うし、学校だけではなくて一般の人たちにも浸透し、親しんでもらえるといい。そうでないと、水引の文化が薄まってしまって、それはすごく残念。飯田の伝統文化で大切なものだと思う。

委員A 図書館サービス計画の策定の具体的な取組の(2)として、子どもの読書活動の推進の取組で発達段階に応じた子ども読書活動とあり、図書館が取り組むべきことだと思うが、市として「本を読む子を育てる」という活動の取り組みと対策をしてほしい。これは地域、保育園、学校、幼稚園、地区すべてが当てはまると思うので、簡潔に「本を読む子を育てる」という明確な文章が欲しい。

事務局 内容としては、図書館サービス計画8～9ページに、端的ではなく長々と書いてしまっているが、もっとわかりやすくということで、ご意見を参考にさせていただく。

委員F 計画に対する意見ではないが、コロナウィルス対策で、子どもたちへの読み聞かせ、特に読み聞かせボランティアによる活動ができていない状況にある。細々とやらせてもらっている中で、回数が少なくなったので、おはなしを聞くことができない子どもたちが増えているのではないかと感じる。この学年にはこの本をこの季節に触れさせてあげたい、聞かせてあげたいという思いがあって選んでいるが、今年はそれが無理。聞けないという状況が生まれてきている。1、2年生についてはそれがもっと顕著じゃないかと感じている。これが来年度、再来年度と続いたら、どうなってしまうのかと不安に思う。そこをどうしていくのか。図書館にどうこうしろということではないが、そのことで感じていることはあるか。

事務局 今年度、学校での読み聞かせの頻度や、ボランティアの方の読みきかせがの回数が少なくなっているのは聞いている。学校のコロナ対応で、学校司書による読みきかせも少なくなっていると聞いている。学校はそういう状況はまだ続いているのか。

委員C (自分の) 小学校では、週1回図書館の時間があり、以前は集まって読みきかせをしていたが、今は、教室で子どもたちが椅子に座った状態で読みきかせをしている。回数として減っているということはないと思う。

事務局 一昨年、去年のアンケートでは、朝読書、一斉読書の時間があったが、今年はコロナ禍の中でその時間がなかなかとれないと聞いた。一斉読書の時間は少なくなっているという現状があるか。

委員B 年度前半は(自分の) 中学校もコロナ休校の授業時間を戻すために中止したことがあったが、今は復活している。時間をとれるようになり、朝15分を行っている。

事務局 まだこれからの状況が見通せないところがある。この年代の子どもにはこういう体験を提供していくということを、公共図書館だけではなく、学校や保育所と一緒に考えていきたい。年齢に応じて手渡したい本など、一緒に考えていきたいと思っている。また、乳幼児期は、家庭への働きかけが大きいと思う。本に親しむ子どもになるには、まず家庭がそういう環境になることが大事である。コロナ禍で家庭での時間が増えている中で、本があり、本を通じた人とのふれあいがあるような家庭へと、保護者の方、家庭への働きかけを強めていきたい。

委員G (4) 「学び合いにより人と人がつながり、読書や学びが広がる場づくりに取り組みます」とあるが、具体的に図書館サービス計画のIVの「現状の評価・今後の方向性」の中で、「これまで、読書会交流会、(以下略)少ないという課題があります」というところがよくわからない。「市民からの提案により(以下略)広がりました」ということが取組のところにもあるが、「市民自ら企画を行い(以下略)積極的に支援します」とは、具体的にはどうなのか。

事務局 参加者の主体的な学びや実践につながるものが少ないという課題だが、例えば郷土に関する講座をする、その講座に来てその時間聞くだけで終わってしまうという状況になっているのではないかと考えている。各講座で本の紹介は行っているが、講座で聞いたことを参加者それぞれが自分でも調べてみるとか、交流に広がるように感想や意見を交わす、そんな仕掛けを作りたいと思う。それぞれの会の後継者不足という課題もあり、読書会も聞いただけで終わるのではなくて、それぞれがまたさらにつながっていく、そんな仕組みが作っていったらいいのではないかと。

「市民自らの企画」については、市民の方から図書館に企画の提案をいただくことがあり、そういう企画がここ何年かずっと継続してできている。市民の方と一緒にやることで、図書館の資料の充実にもつながり、企画運営を一緒にすることで市民皆さんが主体的に参加してくださり参加の輪も広がるというところが、目指すところとも一致しており、とても良い点なのでもっと深めていきたい。

委員H 教育ビジョンのスポーツ・運動習慣の定着、スポーツを通じたコミュニティづくりにもちよっと関連して質問した。私も自分たちで運動を、市で主催したいいきいき運動塾というのがあって、その後は自分たちで、継続して月に2回続けている。こういうのはもっと会員を増やしたいから、高齢者ばかりでだんだん減って来ってしまうから、なにか協力して自分たちでいろいろチラシを作って持って行って配って、組合回覧でいいから全戸配布してとお願いしたら個人的なものはだめだと断られた。自発的に市民がやっていることに対して、市が支援してくれない。高齢者が健康であるということはとてもいいことで、読書も大事だが、もっと応援してくれないのかと思っている。阿智村は行き届いていて、健康についての企画も費用は村が出してくれ、飯田市民も無料で受けることができ、体力測定なども行ってくれる。

自分の健康は自助と言っているが、村としても健康長寿でいようという気持ちがあり、行政が（財政面でも）力を入れていて、飯田市との差をいつも感じている。活動を支援しますという言葉はよく出てきているけれど、実際どの程度の支援なのか。こういう意見を出させてもらった。

委員G 図書館の運営で、週に一度木曜日 8 時まで開館しているが、利用の状況はどうか。

事務局 中央図書館は木曜日のみ 8 時まで開館している。時間を延長した当初は定着していなかったが、現在は定着してきていて夏の時期等は 8 時まで利用がある。特に、6～7 時の間はそれまで夕方 5～6 時に来ていた人たちよりも多い日もある。夕方 6～7 時は会社の帰りなどに寄られる方が多いのではないかと思う。また、保育士さんや学校の先生方の利用も見られる。

委員G 昼間は来られない方、仕事が終わってから寄りた方などもいるのではないかと思っている。図書館も大変とは思いますが、身近に感じられるような図書館をつくっていくことのひとつとしても、もう少し時間の延長か、日数を増やすことが考えられないか。仕事が終わってから図書館へ寄ることで自分のケアができる。そういう親近感のある図書館にできないか。

事務局 「もう少し時間の延長」というと 8 時ではなくて 9 時や 10 時を想定しているか。

委員G 6 時ころ仕事が終わってから行ける人がいる。そこから 8 時まで 2 時間だが、もうちょっとあったらどうか。自分はその時間に行ったことがないが、せめて（滞在時間が）3 時間くらいになるように延ばす。勤めた後にいつでも行ける、行けば自分で勉強できるような図書館にできないか。

自分の子どもが勤めている会社では内部で試験があって、終業後に職場で勉強するのは会社に負担がかかる。それでは図書館に行って時間を過ごしてみようかならばいいと思った。そうなれば、図書館はいつでも行けるとなっていていいかと思う。

事務局 8 時までの開館も今は定着してきているが、決める前は、何時まで開館するのがいいのか、あるいは週に何日にした方がいいのか検討し、最初に 9 時までの開館を試行した。その中で、実際に本を借りにみえる方は、8 時より前に利用が少なくなったということがあり、8 時までと決定したという経過がある。

仕事帰りに寄れるので便利に使っていただいている面もあるが、全体の利用者の数としては、新しい利用者というよりは、土日に来ていた方が夜に来ることが数字からも見えてきた。費用対効果も考え、夜でなければ来られない方のために週に 1 日は 8 時まで開館し、土日あるいは祝日に来られる方はそちらも使っていただきたいということで、一週間に 1 日、時間を延長することとした。

さらに他の曜日にも夜間に延長できるかということ、カウンターの人員配置や、午前中に行うほかの業務のことなどを考えると、現在のところは週 1 日と考えている。

来年度からの次期サービス計画では、開館時間を30分早くすることができないか検討をしている。土日や、学校が休みの時期、仕事が休みの日はもう少し早くから開いていると、便利になるというご意見もいただいている。こちら職員もシフト等を考えると厳しいことと、現在、開館前に行っている業務が開館後になることも出てくるが、来年度早いうちに9時半に変更する検討をしている。どのような開館時間拡大が市民の皆さんに有効で、便利であるかということも考えながら検討していることである。

- 委員A 以前、広報に本の借り方について特集を組んだときがあった。
飯田市の図書館はどういうサービスがあってやってもらえるのか、市民はあまり知らないと思う。広報にまた記事を書いていただいでいくのがいいと思う。
- 委員G この協議会に出ると、図書館の職員が心を砕いて市民サービスを提案しているのはよくわかるが、市民にPRが足りない、もったいないなと思う。市民の方に周知できれば、利用度も増えたり、参加する方も多くなるという気がする。いろいろ企画をされている割にはPRが足りない気と思う。検討してほしい。
- 事務局 職員は同じようなことになりがち。この機会にぜひ、良いアイデアがあったら教えていただければ嬉しい。
- 委員D 若い世代への取り組みで、中学生を対象に図書館司書体験をやったそうだが、非常に大事でいいことだと思った。しかしながら、どうしてもそういうのに参加してくる子どもたちは本が好きだったり、読書を比較的している子たちで、それ以外の子たちにどういふ広げ方をしたらいいのかという点も感じる。
- 事務局 今取り上げていただいた「Join us!いいだLib 2図書館司書体験」のチラシをお配りしてある。こちらは12月19日に行い、7校から中学生が8名参加して、図書館の司書体験をした。おっしゃる通り、図書館が好き、本が好きという子たちが参加した。図書館としても、そういう子どもたちの意見が聞けたのは大変良かった。図書館としては、まずそういう子たちから始めて、市の図書館に親しんでもらう、そんな体験から周りの子に広がっていってくれるといいなあと思っている。チラシの裏面には1月の企画が載せてあって、こちらは高校生までに（参加対象を）広げている。やはり、そういう核になる子どもたちにしっかり図書館を好きになってもらって利用してもらうことで、そこから友達などに広がっていくといいなと考えている。またこちらに関しても、「なにかこんな企画やってみたら」というアイデアがあったらぜひお聞かせいただきたい。
また、飯田駅前のピアゴの跡地利用についての検討に図書館も加わっている。基本的には飯田市の公民館が2・3階へ移転する予定だが、駅前という立地であり、若い世代が集う場、自由に市民が勉強したり学べる場となるような使い方を検討している。公民館や図書館だけに限らず、地域に密着したことだったり、夢を実現することだったり、様々な企画を高校生

や若い世代に向けて発信していく、そういう場にしたいという市の考えもある。もうちょっと自由に気楽にやれる場、その中からいろんな興味に広がっていくような企画、見せ方をできる場になるよう検討している。

事務局 図書のスペースも、形態も、図書館が主体的にかかわるのか、市民の皆さんが主体的にやる場なのか、まだ検討を進めている段階ではあるが、本のある空間をつくり、本に親しんでもらう。そうすると図書館や読書に関心のない皆さんも、そういう場は寄りやすく、そこで新しい発見があったり、創造につながる場をつくりたいということで、検討を進めている段階である。

委員 I 職員の皆さんが熱い思いで、こういう計画を基に運営が回っているんだなと感じている。前回の課題を踏まえて、この計画が実現するように案を作り、これを基にまた来年度から楽しい企画が図書館から出てくるのかなと思って、今から楽しみに思っている。よく練ってある計画なんじゃないかなと思う。

その中で「蔵書の充実を図ります」と書いてあるが、利用していて自分が読みたい本が、用意されないことが今までなく、ありがたく利用している。新刊の本や入っていない本でも、リクエストすると用意してくれ不自由は感じない。

ただ、読みたい本に出会わないとか、インターネットのコンテンツで十分とかで終わってしまっている友達も多いので、「この本いいですよ」という紹介がもっとあると、みんな行きたくなくなるのではないかな。

今月、小学校で、図書館司書と学校図書館の職員とが1・2年生に向けて作ったおすすめ本リスト「よむリス」が配られた。こういうのがあると親としては「じゃあこの本借りてみようかな」と思ったり、良いきっかけになると思う。

また、図書館のホームページに「よむとす」（図書館員の本の紹介）があるが、あれをもっと推したらどうかと思う。あれ大好き。ひとりひとり年齢も性別も興味も違う司書が、おすすめの本を紹介していて、読みたいと思って借りたこともある。その中に上郷図書館が青年団の手によってつくられたと書いてある本があり、それも絶対新聞にも出てこないし自分にそういう視点がない本だったけれど、あの「よむとす」を見たからこそ読めて、そういう熱い思いを青年たちが持ってつくった図書館なんだなと詳しくなれるという体験を今年はさせてもらった。本当に今までの分がいっぱい溜まっているのを出版してもいいくらいだと思う。飯田市が長野県や全国に誇っていい財産になるのではないかな。そのくらい、ぜひ見たことのない人は見てもらいたいと思うし、広報にQRコードとかつけて直接よむとすのページに、よむとすの記事をそのまま載せてもいいくらい、本当に推していかないか。ぜひご覧になったことのない人は、ご覧になってみて。

委員 F 南信州新聞に載っている。私も、何の本が出ているかな、誰が書いたのか毎回楽しみにしている。自分が手に取らないと思われる本が紹介されていて、紹介文を読んで面白そうだから読んでみたいと書き留めている。誰かが本を紹介してくれるということは大事なことだと思

う。ぜひ、続けていっていただきたい。ホームページにおすすめ本が載っていることを知らない方も多いと思う。もっと周知するといい。

委員 I 図書館の中にそのコーナーをつくってもいいんじゃないかと思う。

事務局 アピール不足で申し訳ありません。中央図書館には一応コーナーが作っており、中央・県・市郷図書館では、コピーがすべてファイリングされていて、実際手に取って最初から全部見られるようにファイルが作ってある。ホームページでも、過去の分も全部見ることができるようにしている。職員も、より皆さんに本を広げていけるような紹介を心掛けていきたい。

委員 F その時だけではなく、例えば3か月分まとめて常設するというようなコーナーはどうか。

事務局 3～4回分くらい中央館では並べている。（記事も壁に）貼ってある。

委員 F 本もあるのか。

事務局 本も一緒に出してある。

委員 F ぱっとう、目につくようにしていただけるといい。

事務局 （図書館サービス計画について）先生方からも、学校と一緒にやっていきたい計画もあるので、ご意見があったら、お聞かせいただきたい。

委員 B （教育委員会で）いろいろな計画がまとまっているが、教育振興基本計画は今までよりさらにいろいろ盛り込まれているという印象がある。今までの経過を受けて、よりこう広がっていくところもあるだろうし、もっていくものもあるだろう。その辺を基にして図書館として何ができるかという視点で見ていくことが大事だと思うのだが、先ほどから話に出ている若い世代の居場所作りとか、キャリア教育だとかいろんなことが関係していると思った。それを具体的にどう取り組むのか。

また、それを受けて、学校の図書館でも話に上がっているが、子どもたちの読書活動を推進していくというところが一番大事なところで、ICT教育の話もあったが、一人一台配置された（タブレット）端末をいかに活かしていくか、読書までどこまでつなげていけるのか。読書はアナログの場。それはとても大切なことだと思うが、世の中の流れとしてデジタルの教育も大事。そのデジタルの部分とアナログの読書活動をつなげるように活かさないか。それぞれ別の視点ではなく、例えば子どもが一台持っている端末を見た時に、図書館のホームページの話もあったことだし、いろんな情報が、子どもたちがそれぞれ見ることが出来て、読みたい本がある。じゃあ図書館に行ってみよう、という一連の流れができれば、繋ぐ役割として機能するのかなと思った。学校図書館としても、民間等でも、デジタルでつながり合

うというところをぜひ推進していただきたい。それを基盤につながりが持てるよう活かしたいと思う。それが子どもたちが本を探していくきっかけになっていかないか。

地域の情報拠点となるということが大前提で、とても大事だと思う。基本的に学校図書館も情報拠点だが、そういう場にしていくにはどうしたらいいのか。少しずつ開始しているが、中学校にとってはなかなか時間が取れないので、たった10分、15分の限られた時間でも協力してやっていくことが大事だし、地域の図書館に中学生が足を運んで調べること、本を読むこと、そういう機会をもっと増やしたい。そのためにICTも繋ぎ役として活かしたい。話は逸れるが、高校生から20代までの若い世代のところの課題もずっと言われていることだと思う。先ほどの話の通り、居場所としての図書館、図書館の枠を超えるかもしれないがそういうところが若い世代にないと集まってこない気もする。そこに行ったら本があって、夢のようだがICTの関係でみれば、例えば高校生あたりがスマホか何かを持ってきてピッとやって本を借りられるような、そういうのはないか。

事務局 導入にはまだハードルがあるが、仕組みとしてはできている。

委員B そういうのが広がっていくと良いのかな。
やはりこのコロナ禍の時代であれば、なかなか図書館に行けないときもあるので、宅配とかそんな発想も必要かなと思う。図書館として人を待っている、来てくれるのもいいけれど、こちらから発信していく、呼び掛けていく、飛び出していく、そんな活動もできればいい。小学校・中学校ではどうかというと、本を読む子どもを育てるには私たちもそういうことを考えなければならない。

委員C 1・2年生の本のリスト（よむリス）を実際に見せてもらい、学校と図書館がつながって学年別のおすすめ図書というところができ、ありがたいと思った。学校としてもそれを受けて、子どもたちに読書推進をしていかなきゃいけないと思う。
また、発達段階に応じた子どもの読書活動の推進のところで、はじめまして絵本（7ヶ月のときに本を贈る）があつてとてもいいことだと思うが、これを学童期にもプレゼントはできないか。実際に自分で読めるようになってから、自分の本として手元にあるというのは、子どもにとっては嬉しいことだし、読もうと思う気持ちに繋がる。もちろん図書館で借りた本というのは読むだけだけど、借りただけで読まない子も結構いる。でもプレゼントされた自分だけの本というのはずっと手元にあるので、大事に読むのではないかなと思う。市として子どもたちに向けるお金のこういうかけ方もあるのかなと思う。
それから、図書館もデジタル化について、学校の図書館では、Wi-Fiもつながらずインターネットもできず、学校図書館の環境がと思った。情報センターとしての図書館を考えると、もう少しそこも整備されてもっとつながっていけるといいと思う。

(6) その他

事務局 特になし。

委員 特になし。

会長 以上を以て、協議を終了する。